

新年のご挨拶

若桜町長 上川 元張



新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「4年振り」が流行語大賞トップ10に選ばれましたが、昨年は新型コロナウイルスが5類に移行し、社会経済活動が正常化しました。町内でも、納涼花火大会、鬼っこまつりなどの各種イベントや町民大運動会、敬老会などの行事が全面的に復活し、町に賑わいが戻ってきました。また、人気番組「鶴瓶の家族に乾杯」の笑福亭鶴瓶さんと小池栄子さんの収録や、面白CMで話題の夢グループのイベント出演など有名人の来町で、町全体が盛り上がりました。また、国同士の交流も再開し、交流提携を結ぶ台湾新竹県横山郷への初訪問が叶いました。様々な面でコロナ禍の長いトンネルから抜け出したことを実感できる年

となりました。

さて、早いもので、私も来月で就任2年となり、任期の折り返しを迎えます。町政の諸課題に道筋が付いたものもあれば、まだ進捗が遅れているものもありますが、町民の暮らしを守ることに、地域経済を活性化させることを常に念頭に置きながら職務に取り組んできました。この1年の町政の動きを振り返ってみます。

昨年の大きな課題の一つはトスク閉店問題でした。地権者のご理解のもとで公設民営店舗の環境整備を進め、また県の交付金制度も活用した支援措置を講ずることで、店舗はエスマートに、移動販売はフードセンター小嶋に引き継いでいただき、買い物環境を守ることができました。今後、町内各店舗での買い物により一層心掛けていただき、買い物環境の維持にご協力をお願いいたします。



▲フードセンター小嶋の移動販売車

公共交通については、8月から落折・小船地区で共助交通の試験運行を開始されました。池田では初めての試みです。若桜宿では、11月にグリーンスローモビリティの試験運行を実施し、多くの皆さんが乗車を体験し、意見をお寄せいただきました。今後、町民の生活交通として、また観光客の二次交

通としての実用化の可能性を検証し、本格運行の可否を判断します。若桜鉄道については、コロナも収束傾向となり、旅客の回復とグッズ販売等営業外収益の好調により、令和4年度は3期ぶりの黒字決算となりました。

医療・福祉の分野では、鳥取医療生活協同組合による「若桜さくらの郷」の新築工事も、今年4月のオープンに向けて順調に進められています。診療所、通所介護施設、高齢者住宅を一体的に整備する計画であり、これにより、本町の地域包括ケアの推進に寄与していただけるものと期待しています。また、介護保険事業計画の改定期でもあり、サービス内容や規模が大きく変わることから、介護報酬の改定等も踏まえ、町内の各事業所と連携し改定作業を行っているところです。

除雪については、昨年度はポンプの不具合により若桜宿内や氷ノ山スキー場の消雪施設が十分機能せず、交通障害も発生しましたが、今年は改善の見通しです。高野・上高野集落や加地集落等では消雪施設の増強改修を行いました。また、除雪ドーザーを更新し、集落



▲リニューアル後の「わかさ氷ノ山キャンパーズヴィレッジ」(キャンプ場)

に配備する小型除雪機も購入するなど、施設・装備の充実強化を図り、積雪シーズンに備えています。観光面では、町内の主要観光施設の管理運営を担う指定管理者が10月に交代しました。氷太くん、キャンプ場、スキー場など氷ノ山の町営施設を一体的に管理することとなった中一&スマイルカンパニー(株)は、アウトドアでの実績を強みに、グリーンシーズンの集客に力を入れ、スキーのみに頼らない経営

スタイルを目指します。リニューアルした氷ノ山グラウンドも学生合宿などでの利用が見込まれます。また、道の駅若桜桜ん坊を新たに管理するシタックス大新東ヒューマンサービス(株)は、全国9カ所での道の駅を経営しており、地域資源を活かした経営展開を目指します。いずれも民間の視点や手法を活かした経営により、集客や収益の拡大が期待されます。

基幹産業である農林業ですが、農業については、町が出資する(有)若桜農林振興が認定農業者の資格を取り、本格的な米作経営に参入しました。燃油・肥料価格の高騰や人手不足など厳しい経営環境の中、米の栽培面積を大幅に増やすことで耕作放棄地の拡大を防止しつつ、販路開拓にも実績を上げています。地籍調査の進捗が大きく遅れている本町ですが、今年度「地籍調査課」を新設し、推進体制を整えました。山林境界の明確化事業にも着手し、森林資源を活用し林業生産を拡大するための環境整備を進めています。

昨年は、旧若桜町と旧池田村が合併して70周年の記念の年でした。昭和、平成から令和へと激動

の時代を切り開き、本町発展の礎を築かれた先人の功績に感謝し、次代を担う子どもたちとともに新しい時代を築いていく決意を新たにす年となりました。

そんな中、若桜学園の児童生徒の活躍が注目を集める年でもありました。7年生は自分たちで提案した階段アートを、見事、中之島公園で実現してくれましたし、9年生は町内事業者と連携して「氷ノ山夏イチゴスムージー」や「シカ肉そぼろ丼」を商品開発し、新聞でも取り上げられました。また、多くのイベントに、吹奏楽部、若桜氷ノ山樹氷太鼓、若桜鬼っこ連、



▲若桜氷ノ山樹氷太鼓(春色まつり)

トランポロピクスなど学年を超えて参加し、盛り上げてくれました。高校生も多くのイベントの運営をボランティアで支えてくれました。積極的に地域社会と関わる子どもたちの頼もしい姿は、町の明るい未来そのものです。

また、合併以降の町政の動向を記録した「続若桜町誌」が、3月に発刊の運びとなります。一大事業の完遂に向け、原稿執筆・校正作業に従事いただいた編纂委員はじめ関係者の皆様のご功績とご労苦に心より敬意と感謝を捧げます。

今年10月には県内でねんりんピック本大会が開催され、本町は健康マージャンの会場となります。全国から来町される多くの選手、家族、役員の皆さんをおもてなし、町をPRする機会としたいと思います。

町政の最重要課題は、人口減少に歯止めを掛けることです。今年も、定住環境を整備し、地域経済を活性化して、持続可能なまちづくりに取り組みます。町民の皆様にとって、また若桜町にとって、辰年が象徴する活力旺盛な年となりますことをお祈りして、新年のごあいさついたします。